

豪ドル/円相場の当面のポイント

はじめに

足下の豪ドル/円は、2013年4月に105.407円の高値を付けたものの、8月に86.399円まで急落。その後は、概ね88円～95円でもみ合う展開となっている。現在の相場の立ち位置を知るべく、まずは四半期足を見てゆきたい。

1990年以降の豪ドル/円相場(図1)を見ると、1990年以降は60円割れの水準が底、100円を越えた水準が天井となっている(赤い四角の囲み)。過去20年ほどの豪ドル/円相場の中で、現在はやや上に位置している。

もっとも、これではあまりにも大まかであり、方向感をつかめても実際の取引には応用しにくい。ここから先は日足と週足に分け、これまでの動きや今後の流れを見てゆきたい。

当面の注目点

週足(図3)を見るとトレンドが出ていない事を示している一方、日足(図2)は上向きを示している。通常、トレンドを見る上で、一般的には大きな動きを先に見てから細かい動きを見てゆくのが一般的ではあるが、今月に入り三角もち合い上限を突破した事で、日足が週足を突き動かす可能性が出てきた。日足・週足のポイントはこれが

図1: 豪ドル/円四半期足(1990年～、2014/3/28終了時点)



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

ら述べるが、まずは日足(図2)に注目したい。

(1) 目先は2013年10月高値が焦点

2014年3月後半にもち合い上限を上抜けた事で、目先は直近高値(2013年10月につけた95.675円)を突破できるかが焦点となる。ここを超えられれば、三角もち合い上抜けにより上昇トレンドに入る公算である。ただし、突破できずに反落するようだと、三角もち合い上限を引き直してもち合い継続となる事も考えられる。

(2) 200日移動平均線

200日線もまた、上昇トレンド入りを示唆している。同線は2013年6月にローソク足が同線を下抜けて以降、戻りの目処となっていたが、今月に入り同線をしっかりと上抜けてきた。また同線の傾きを

見ると、それまでの下向きから、僅かに上向きに転じている。同線がほぼ横ばいもしくは僅かに上向きのところでローソク足が下から上に抜けてゆくのは、グランビルの法則の買いサインである。

次に週足を見てゆきたい。

○フォーメーションはもち合い下抜けを示唆

2013年4月に105.407円の高値を見て86.399円まで急落、その後は三角もち合いを形成(青線)を形成している。もち合いに入る前が下降トレンドであった事から、教科書的にはもち合いは下抜けが示唆されている。なお、移動平均線は13・26週線がほぼ横ばい、52週線の下落スピードは足下でやや緩やかになっているが、これは半年以上に渡りもち合い相場が継続したことが原因であ

図2:豪ドル/円 日足(2014/3/31時点)



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

る。

上値目処

○「もち合いは放れに付け」

足下の三角もち合いについて、週足のみならず日足でも確認できる事から、次の動きを読む上で三角もち合いをどちらに抜けてゆくかを見極めることが重要になってくる。足下で直近高値(3月7日に付けた94.466円)を突破しており、2013年10月高値95.675円突破が見えてきた。この時は2013年4月高値105.407円～同年8月安値86.399円の下げ幅半値戻し(95.903円)を前に伸び悩んでおり、ここを超えられれば、相場はそれまでのもち合いから、2013年4月高値～8月安値の下げ幅に対する戻りを試す局面に移ったと考えられる。月足でのレンジを意識するならば、まずは100円の大

台がポイントとなろう。

それ以外の主な上値の目処としては、以下の水準が挙げられる。

- ◆97.506円(2013年8月安値86.399円～同年10月高値95.675円の値幅9.276円を、2014年2月安値88.230円に加えた値。N計算値)
- ◆98.146円(2013年4月高値105.407円～同年8月安値86.399円の下げ幅61.8%戻し)
- ◆104.430円(2008年7月高値)
- ◆105.407円(2013年4月高値)
- ◆107.790円(2007年11月高値)

注意点

○上限を修正してもち合い継続の可能性

図3:豪ドル/円 週足(2014/3/31時点)



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

3月7日高値を突破した現在、このシナリオの可能性は低いと見るが、前述の2013年10月高値を突破できずに足下の上昇の起点となった3月17日安値(91.279円)を割り込むようだと、もち合い上抜けはダマシに終わる事も考えられる。その場合は昨年10月と新たな高値を結ぶレジスタンスラインにもち合い上限を変更した上で、三角もち合いが継続する事となる。高値更新で市場の目線が上向きとなっている時だけに注意したい。

下値目処

○サポートラインの存在

もし三角もち合いを下抜けるようだと、2009年2月と2012年6月の安値を結ぶサポートライン(今週は84.532円。なお、毎週約10.9銭のスピードで上昇)を巡る攻防の行方が注目される。同線で下げ止まらないようだと、相場は2010~2012年のもみ合い(概ね72円~90円)への回帰が視野に入るだろう。

その他の下値目処として、以下の水準が挙げられる。

- ◆88.865円(3月31日時点での、三角もち合い下限。なお、一日に1.6銭弱のスピードで下降)
- ◆80.184円(2008年10月安値54.960円-2013年4月高値105.407円の値幅50.447円の1/2押し)
- ◆79.400円(2012年10月安値)
- ◆76.667円(2013年4月高値105.407円-同年8月安値86.399円の値幅19.008円を、同年10月高値95.675円から引いた値。N計算値)

◆71.850円(2010年5月安値)

まとめ

昨年後半より半年以上続いた三角もち合いを上抜けたが、その上抜けが本物であるかを見極めることがポイントとなる。もち合い上限の始点にあたる2013年10月高値を超えてゆけるのであれば、上昇トレンドに入る公算である。ただし、2013年10月高値を前に失速するようならば、もち合い上限を引き直した上で三角もち合いが継続する事もあり得る。目先はもち合い上限を巡る攻防を見極めた上で、流れに乗るのが賢明であろう。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com